

# 平成24年度病害虫発生予察指導情報

( ナシ・越冬害虫 )

平成24年12月25日  
鳥取県病害虫防除所

[ ハダニ類 ]

## 1. 情報の内容

- (1) 県内巡回定点におけるカンザワハダニの越冬量は、1バンドあたり平均0頭(前年:2.3頭、平年:7.0頭)で、今回の調査では確認できなかった。
- (2) ナミハダニの越冬量は1バンド当たり0頭(前年:0頭、平年:0.0頭)で、今回の調査では確認できなかった。
- (3) クワオオハダニの休眠卵数は1短果枝当たり0.4個(前年:1.5個、平年:4.0個)で前年及び平年よりやや少ない。

表1 ナシにおけるハダニ類の越冬密度

調査地点	カンザワハダニ(成虫)			ナミハダニ(成虫)			クワオオハダニ(越冬卵)		
	本年	前年	平年 <sup>1</sup>	本年	前年	平年 <sup>1</sup>	本年	前年	平年 <sup>1</sup>
鳥取市 佐治町	0	0	18.0	0	0	0.0	1.1	0	5.0
鳥取市 青谷町 <sup>2</sup>	0	0	0.7	0	0	0.0	0	0.9	0.6
八頭町 花原 <sup>6</sup>	0	1.2	1.7	0	0	0	0	2.3	1.7
中部	倉吉市 中野 <sup>4</sup>	0	0	0.1	0	0	0	0	1.2
	湯梨浜町 別所	0	8.3	4.9	0	0	0.1	1.3	9.2
	北栄町 由良宿	0	0.1	1.2	0	0	0	0	0.8
	琴浦町 竹ノ内 <sup>3</sup>	0	10.8	1.3	0	0	0.0	1.4	0
西部	大山町 坪田 <sup>4</sup>	0	0	0.6	0	0	0.0	0	0.5
	南部町 朝金 <sup>5</sup>	0	0	34.2	0	0	0.0	0	0
県平均	0	2.3	7.0	0	0	0.0	0.4	1.5	4.0

<sup>1</sup>: 平年はH14~23年の平均値

<sup>2</sup>: 平年はH15~23年の平均値

<sup>3</sup>: H20年から調査地点変更

<sup>4</sup>: H21年から調査地点変更

<sup>5</sup>: H23年から調査地点変更

<sup>6</sup>: H24年から調査地点変更

調査方法: 9月に紙バンドをほ場に設置。園あたり6バンド(1樹3バンド、2樹設置)。12月に紙バンドを回収後、バンドあたりのカンザワハダニ及びナミハダニ越冬個体数を調査。同時に園あたり40短果枝を採取し、短果枝あたりのクワオオハダニ越冬卵数を調査。

## 2. 防除上注意すべき事項

秋期にハダニ類の発生密度が高かった園では、越冬量が多いと予想されるため、休眠期の防除を徹底する。カンザワハダニ及びナミハダニには(1)~(3)、クワオオハダニには(3)が有効である。

(1) 誘殺バンドの取りはずし

主枝や垂主枝に誘殺バンドを設置している園では、12~2月にバンドを取りはずして処分する。

(2) 粗皮削り

12~2月に、カンザワハダニやナミハダニの越冬場所である粗皮を削り取る。特に、誘殺バンドを巻き付けた部分の粗皮は必ず削り取っておく。

(3) 薬剤散布

3月中旬に、マシン油乳剤(ハーベストオイル)50倍液を散布する。

[ クサギカメムシ ]

1. 情報の内容

- (1) 簡易小屋トラップ調査によると、クサギカメムシの越冬成虫数は、1トラップあたり0頭(平年: 5.5頭)で平年と比較して少ない。

表1 簡易小屋トラップ調査によるクサギカメムシの越冬量\*

調査地点	本年	前年	平年**
八頭町 花原	0	3	7.2
倉吉市 小田	欠測	13	13.4
湯梨浜町 原	0	0	0.3
三朝町 上西谷	0	0	6.1
北栄町 由良宿	0	1	0.4
平均	0	3.4	5.5

\*表中の数字は、1トラップあたりの成虫数を示す。

\*\* 平年はH13~22年の平均値。

2. 防除上注意すべき事項

- (1) クサギカメムシは、果樹園内の作業小屋などで越冬しているため、休眠期の防除対策として、3月までに小屋を清掃し、越冬成虫を必ず捕殺しておく。
- (2) 例年発生が多い園では、4月以降、定期的にはほ場を見回るなどして、春先の発生程度の把握に努める。